

下伊那地方のフロラに追加されるべき植物2種

浅野 一 男

K. Asano: Two plants newly found in Shimoina-gun, Nagano-ken, Japan

1. ベニシュスラン *Goodyera macrantha* Maxim.

関東地方から九州までの暖温帯性常緑広葉樹林に適合して生活している本種の長野県内の分布については、奥原弘人氏(1985)が報じた木曽谷が知られているだけである。ところが1985年7月20日に下伊那郡天龍村大輪地籍の平岡ダム湖岸道路沿いの岩壁の岩棚で、キヌタソウの草むらの中に3株生えているのを発見した。現場一帯は下伊那では数少ないシナノナデシコの生育地でもあるが、道路防護のためのコンクリート吹付け工事が進行中で、ベニシュ

スラン生育地もすでに工事用の金網が張りめぐらされていた。あれから7ヶ月余経た今日では、もはやコンクリートの下に埋もれているかも知れない。貴重な植物の生育地がまた一つ失われたかと思うと、残念でならない。

2. ギボウシラン *Liparis auriculata* Blume

暖温帯性常緑広葉樹林内に生える本種が、天龍村平岡駅近くの山林内に生育しているのを、1985年7月20日に知った。生育地の面積は25㎡位だが、個体数は案外多かった。

[植物ニュース] 84. オオイタドリ *Reynoutria sachalinensis* (Fr. Schm.) Nakai

日本海側の多雪地を中心に本州の中部地方以北と北海道に分布するオオイタドリが、赤石山脈南部に生育していることは、奥原(1982)が本誌15号7頁に報告しているが、私も1985年8月これを確認した。ちょうど花期の盛りだったが、生育地は下伊那郡上村にある尾高山(2212.4 m)のしらびそ峠へ登る道路の道端や周辺の崩壊斜面で、標高約1350~1700 mの間に小群落が散在し、個体数もかなり多く、生活力も旺盛である。(浅野一男)

1985年9月21日、東筑摩郡四賀村稲倉峠(1000 m)ののり面でも大群落を見出した。これも国内帰化植物だろうか。(横内文人)

85. ケナシアオギリ *Firmiana platanifolia* Schott. et Endl.

本種は県下では庭木等に栽植されている。校地内に6月頃より芽ばえが見られるようになった。私の教室の北庭(小石が敷きつめてある)3 m×4 mには1年間に35本の発芽を見た。そのうちの1本は樹高23 cmまで生長した。これらは清掃時にぬき取られてしまい、成木にはならない。

松本市開智2-4-51 開智小学校(592 m)1985, 6, 25採。(横内文人)

86. ミヤマママコナ *Melampyrum laxum* Miq. var. *nikkoense* Beauv.

1985年7月31日、北アルプス槍ヶ岳と西岳間の水俣乗越(約2500 m)で、ハイマツの下草として生えているミヤマママコナを確認した。こういう産状

からミヤマの名前がついたものであろうか。ミヤマママコナは普通アカマツ自然林の下草として生えている。(横内文人)

87. シロバナホトケノザ *Lamium amplexicaule* L. f. *albiflorum* Hiyama

ホトケノザの白花品、茎、葉ともに赤味はない。県下初採集。長野県東筑摩郡四賀村岩井堂(800 m), 1985年5月3日。(横内文人)

88. ハニヤミツバ *Cryptotaenia japonica* Hassk. f. *warabiana* Hara

ミツバの中小葉の3全裂品、サワグルミ林の林床に生育。県下初記載。長野県大町市高瀬川(1300 m), 1985年8月12日。(横内文人)

89. アコウグンバイ (イヌグンバイナズナ)

Cardaria draba Desv.

欧、地中海、西亜地方原産の帰化植物。日本では千葉、神奈川の採集報告がある。県内では、本郷村誌(奥原、松田1983)に記載されているが、長野県植物誌チェックリスト(1984)にはまだ報告されていない。本種を東筑摩郡明科町大足(550 m)の路傍で採集した。近くの農家の牛糞置き場となっているから、種子が飼料に混入して来たものであろう。採集日 1985年5月11日(花期)

1985年6月20日(果実期)(横内文人)

90. オオモミジ(野村) *Acer amoenum* Carr.

庭木の「野村」の雌花を観察していたところ、花柱がねじれ、柱頭の開く方向が子房の軸と直角になること、3枚の翅のある子房もあることを知った。他のカエデ類ではどうであろうか。(清水建美)